

# 文化女子大学学生のための地震用携帯マニュアルの提案

## —災害時の適切な避難行動に向けて—

久木ゼミ 佐々木 麻貴

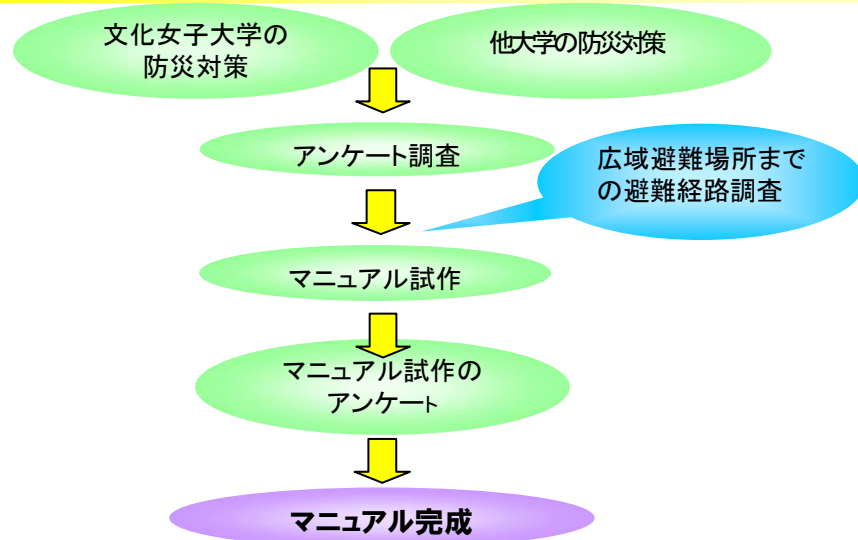
### 1. 研究背景と目的

近年、テレビや雑誌などでは東京直下型大地震が起こるとされており、南関東地震(M6.2~7.2 前後)が **10年以内には30%**、さらに **30年以内には70%**というかなりの高確率で大地震が起こるとされている。実際に東京直下型大地震が起きた場合には、東京都内だけでも約 392 万人もの人が帰宅困難者になってしまう。

また、文化女子大学の学生からも多くの帰宅困難者が発生する可能性がある。

実際に震災が起きた場合に携帯マニュアルを使用し、震災時にその場に適した避難行動を取れるようにすることを目的とした。帰宅困難者となり帰宅する際の注意点を掲載して、文化女子大学震災用マニュアル(学生用)を制作した。

### 2. 研究方法



### 3. 文化女子大学の防災対策

文化女子大学の学生手帳の中には地震災害緊急対応マニュアルが掲載されている。掲載内容は下の5項目である。

#### 地震災害緊急対応マニュアル掲載内容

- ① 授業中に大きな地震が発生した場合
- ② 日頃の備え
- ③ 文化学園地震災害対策本部の設置
- ④ 文化学園地震災害対策本部機能
- ⑤ 災害による緊急時の災害伝言ダイヤル171

また、震災の対策として年に1回避難訓練を実施している。

### 4. 他大学の防災対策

阪神・淡路大震災の被害状況を元に、文化女子大学以外の他大学では、震災に備えてどのような防災対策を行っているのか。各大学のホームページなどで調査した。結果の一部を表1に示す。

表1 大学の防災対策

調査対象大学	対策内容
お茶の水女大学	危機管理マニュアル
埼玉大学	避難訓練
名古屋大学	地震防災ガイド
静岡大学	防災マニュアル
工学院大学	避難訓練
武蔵野大学	スケジュール手帳、防災マニュアル
玉川大学	防災の手引き

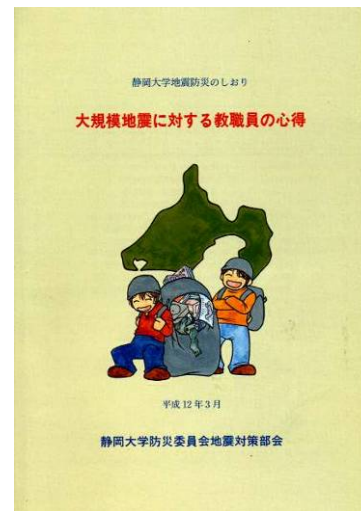


図1 静岡大学防災マニュアル

- 静岡大学では東海沖地震が起きた際、の心得帳を教職員用と学生用の二種類を配布している。
- 工学院大学新宿キャンパスでは、実際の震災時を想定し、体験型防災訓練や他大学や多くの機関と協力して実験的訓練を行っている。

### 5. アンケート調査

文化女子大学震災用マニュアルを制作するにあたり、必要な掲載項目を決定するため、また文化女子大学の学生の帰宅困難者や避難場所に関する意識調査を含むアンケート調査(回答数 109 名)を行った。

#### アンケート内容

- ・住居携帯
- ・通学経路
- ・帰宅困難者
- ・応急処置
- ・災害時帰宅支援ステーション
- ・災害時の安否情報の確認
- ・震災時の適切な行動の取り方
- ・文化女子大学の避難場所の認識度

### 結果

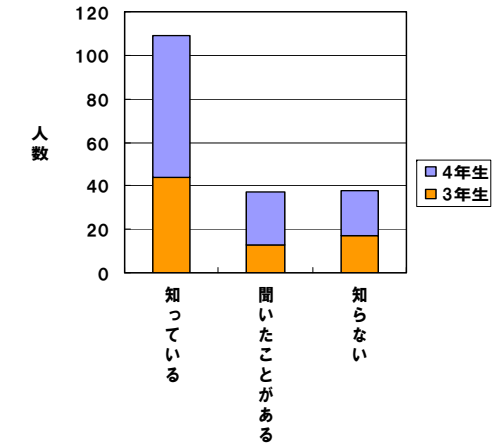


図2 帰宅困難者の認知度

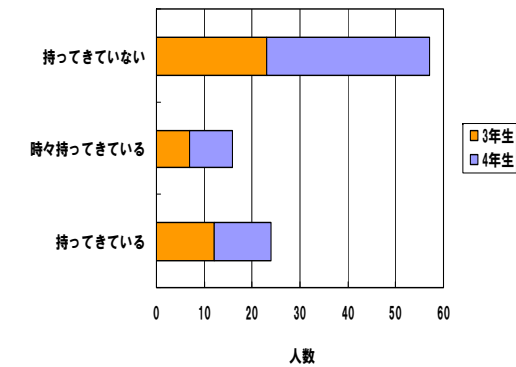


図3 学生手帳を持ってきている学生の人数

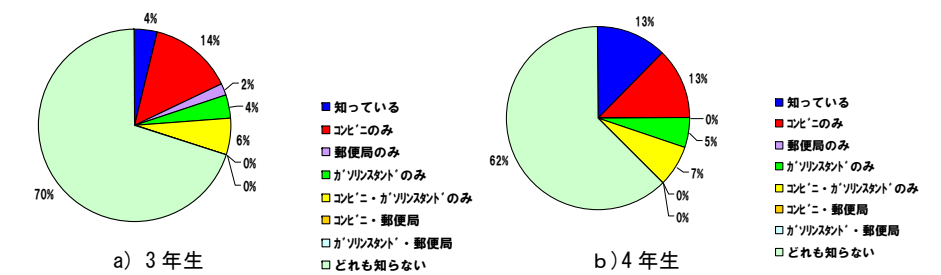


図4 帰宅支援ステーションの認知度

●東京直下型大地震が起きた際には、文化女子大学の学生の多くが帰宅困難者となり、徒歩で自宅まで帰らなくてはならなくなる。

帰宅困難者が徒歩で帰宅する場合に備えて、災害時帰宅支援ステーションとしてコンビニなどが水などの支援を行うことになる。だが、アンケートの結果からは帰宅支援ステーションとなる店舗等について、「どれも知らない」が多い結果となった。



## 6、マニュアル試作

アンケート調査で得た結果や震災関係の雑誌・文献を元に、文化女子大学震災用マニュアルの試作をおこなった。

### マニュアル試作

文化女子大学震災用マニュアルは定期券入れなどに入れて持ち運ぶ事ができるよう、折りたたんで携帯できるものを提案した。

#### 掲載内容

- ① 学内で地震が起きたとき
- ② 学外で地震が起きたとき
- ③ 安否情報
- ④ 日頃から行うべき事
- ⑤ 帰宅困難者
- ⑥ 応急処置
- ⑦ 帰宅する場合
- ⑧ 帰宅支援ステーション
- ⑨ 避難時持っていくといいもの

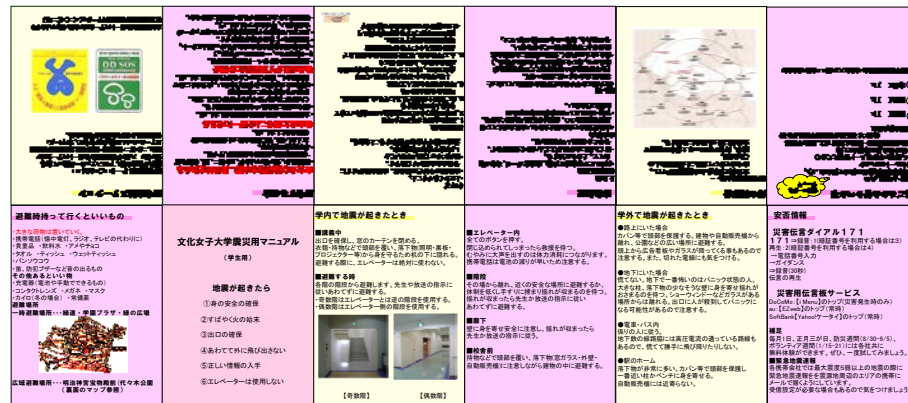
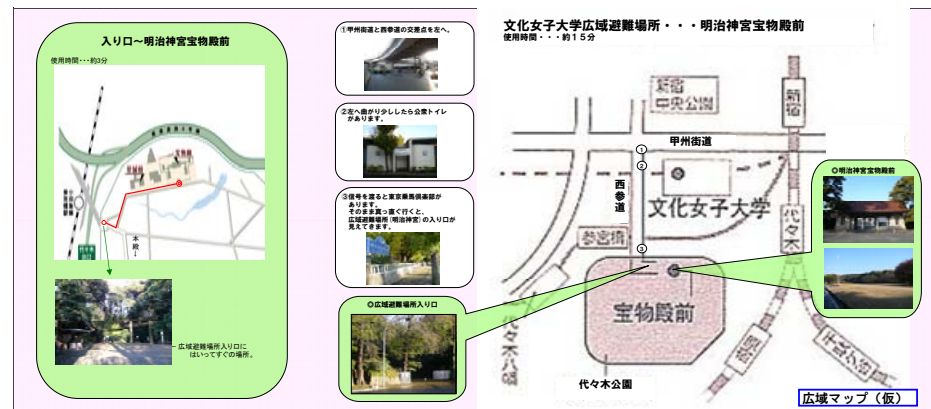


図4 文化女子大学震災用マニュアル 表面

#### 掲載内容

- ① 広域避難場所までの避難マップ
- ② 明治神宮宝物殿前までのマップ



## 7、マニュアル試作のアンケート

文化女子大学の1～4年生に文化女子大学震災用マニュアル試作に関するアンケート調査（回答数27名）を行い、アンケート結果を元にマニュアル試作の掲載項目と掲載内容の改善を行った。また防災の専門家にも意見を伺い、その結果も反映した。

#### 改善内容

- ① もう少し図や写真を掲載するか検討
- ② 重要な文の色変え
- ③ 文章をつめすぎない
- ④ マップの大きさの検討
- ⑤ 掲載する順番の検討
- ⑥ 文化女子大学らしい内容を中心として掲載

### 文化女子大学震災用マニュアル 完成



図6 文化女子大学震災用マニュアル 表面

文化女子大学震災マップの表紙の初期行動の部分の色分けし、見易さを改善した。また、学外で地震が起きたときの避難する時の項目では、写真の他に平面図をのせ、避難の際に使用する階段等も分かりやすく掲載した。全体的には、重要な部分の色や書体を変え、目立つようにした。

## 学生からの意見

写真+図とか入ると分かりやすくなると思う。

文章が硬い感じがするから、もう少しやわらかい表現の文章でもいいのでは？

文章がつまみついていて、見づらい感じがする。段落変えとかですっきりさせるといいと思う。

もっと重要なところの色を変えると見やすい。

試作の段階では表面のマニュアル部分に掲載していた、帰宅困難者関係の項目を裏面へと移動した。また、災害時帰宅支援ステーションなどの具体的な店名を掲載するなど、修正し完成とした。



図7 文化女子大学震災用マニュアル 裏面

## 8、まとめ

本研究では、文化女子大学の学生が震災時に必要となるマニュアルを作成した。折りたたむとカードの大きさになる携帯用のものであり、常に携帯し、いざという時に文化女子大学の学生が正しい行動ができるようになることを期待する。